

製品名: CPT1-M ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09335**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	88kDa

抗原情報

遺伝子名	CPT1B CPT1B; KIAA1670; Carnitine O-palmitoyltransferase 1; muscle isoform; CPT1-M; Carnitine O-palmitoyltransferase I, muscle isoform; CPT I; CPTI-M; Carnitine palmitoyltransferase 1B; Carnitine palmitoyltransferase I-like protein
別名	
遺伝子 ID	1120/1375
SwissProt ID	Q92523
免疫原	抗血清はヒト CPT1B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 401-450

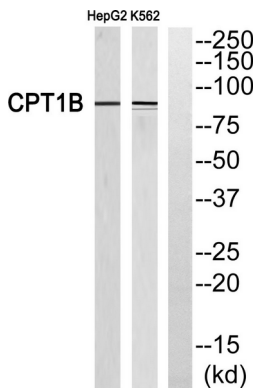
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、カルニチン/コリンアセチルトランスフェラーゼファミリーに属し、筋ミトコンドリアにおける長鎖脂肪酸β酸化経路の律速酵素です。この酵素は、長鎖脂肪酸アシル CoA を細胞質からミトコンドリアへ正味輸送するために不可欠です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかり、この遺伝子のエクソンを含む上流遺伝子座からリードスルー転写産物が発現します。 [RefSeq 提供、2009年6月],触媒活性:ATP + コリン = ADP + O-ホスホコリン。触媒活性:ATP + エタノールアミン = ADP + O-ホスホエタノールアミン。触媒活性:パルミトイル CoA + L-カルニチン = CoA + L-パルミトイルカルニチン。その他:このタンパク質は、非重複リーディングフレームから CHKB タンパク質も生成するバイストロニック遺伝子によって生成されます。その他:このタンパク質は、非重複リーディングフレームから CPT1B タンパク質も生成するバイストロニック遺伝子によって生成されます。経路:脂質代謝; 脂肪酸β酸化。類似性:カルニチン/コリンアセチルトランスフェラーゼファミリーに属します。類似性:コリン/エタノールアミンキナーゼファミリーに属します。組織特異性:心臓と骨格筋で強く発現します。肝臓、腎臓では発現しない。

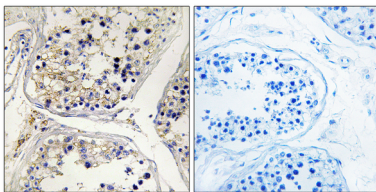
研究分野

脂肪酸代謝;グリセロリン脂質代謝;PPAR;アディポサイトカイン;

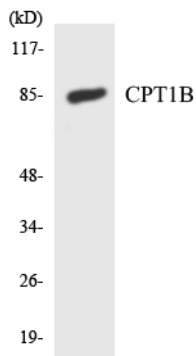
画像データ



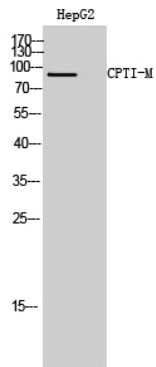
CPT1B 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには CPT1B ペプチドでブロッキングされている。



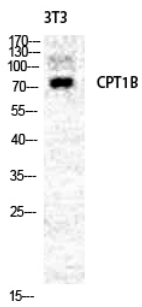
CPT1B 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学染色。右レーンには CPT1B ペプチドでブロッキングされている。



CPT1B 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 2000 希釈の CPT1-M ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析



1: 2000 に希釈した CPT1-M ポリクローナル抗体を用いた NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット解析